

ぎふ早田太鼓の会 プロフィール

平成 24 年 4 月現在

名 称	ぎふ ^{そうでんたいこ} 早田太鼓の会
結 成	平成元年 6 月
会 長	大門 秋雄 〒502-0851 岐阜市鷺山 2 5 6 3 - 1 2 TEL 058-233-9664
指 導 部 長	堀江 和生 〒502-0921 岐阜市守口町 5 - 2 6 - 4 TEL 058-294-5048
構 成	小学生・中学生・高校生・青年・一般（約 5 0 名）
事 務 局	長屋 成泰 〒502-0844 岐阜市岩倉町 3 - 4 9 TEL 058-232-4303 FAX 058-232-4303
<p>『和太鼓』は全国各地の祭りや伝統芸能の素晴らしさと歴史を感じさせるものがあり、日本人の『心』ともいわれています。</p> <p>平成元年 6 月に結成、地域（早田）における青少年の望ましい環境づくりを進めるとともに、大人と青少年（幼、小、中、高）のコミュニティづくりを推進するため、青少年育成市民会議、子ども会育成連合会、PTA、青年団の協力を得て「ぎふ早田太鼓の会」とし発足致しました。</p> <p>また、当会は、幼児、小学生、中学生、高校生、青年（大学生）、一般（男女年齢制限無し）がメンバーとなっており、地域のイベントをはじめ各地で開催される催しに参加し交流を深めています。</p>	
<p>* 主な活動</p> <ul style="list-style-type: none">・平成 3 年 12 月 『創作』 信長太鼓 第 1 部 出陣 披露（信長オプンレット）・太鼓指導「太鼓講座開催」「子ども会」「小・中学生及び高校生」等の指導・第 18 回ぎふ太鼓ふるさとまつり（第 1 回より参加）・国際交流歓迎パーティ・長良川鶺鴒歓迎演奏（年 4 回）・岐阜県立清流園夏祭り・岐阜県立希望ヶ丘学園運動会・老人ホーム・デイケアセンター慰問・第 4 回・7 回・10 回ホノルルフェスティバル参加（ハワイ ホノルル）・平成 11 年度 わが家わが地域の宝物発表会（岐阜県教育委員会主催）・平成 11 年度 郵政事業出発式演奏（郵政省）・平成 13 年度 第 32 回博報賞受賞（伝統文化教育部門）・第 33 回 全国ボランティア研究集会 岐阜集会・平成 14 年度 日本、スリランカ 国交樹立 50 周年記念（スリランカで演奏）・全国非行防止大会 岐阜大会・第 26 回 岐阜県ユネスコ青少年クラブ文化賞受賞・平成 16 年度 わが家わが地域の宝物発表会（岐阜県教育委員会）・第 226 回市民の劇場 『岐阜ふるさと太鼓』 出演・平成 20 年 9 月 ぎふ早田太鼓の会 20 周年記念事業開催『夢・心・響』・第 12 回竹林広場まつり（第 1 回より参加）・地域交流会（『夢・心・響』） 毎年開催・東日本大震災チャリティー演奏会・地域内イベント（ぎふまつり、夏祭り、岐阜公園イルミネーション点灯式など） <p>その他イベント等に参加</p>	

練習は、原則として週 1 回、約 3 時間（日曜日）練習しています。

練習会場は、早田小学校太鼓練習場（音楽室）

演奏曲目

かけあい、気合い、そろい打ち

太鼓の会に入会し、最初に覚える曲です。

付締太鼓と長胴太鼓のかけあい、気合いを入れた力強さ、全員が揃える響と姿
これが特徴になっています。

祝打ち

お祭りやお祝い事があった時にこの曲を演奏します。ワッショイ、ワッショイの掛け声
とともに元気よく打ち、観客の皆さんの手拍子を頂きますと盛り上がる曲です。

清流

清流長良川の鮎が力強く登る様子を表現した曲です。

打ち手の動きと早さが特徴となります。

創作『信長太鼓』

平成3年青少年の望ましい活動と岐阜市民の共通の財産となることを願い、岐阜金華
ライオンズクラブ様から寄贈された曲です。名実ともに郷土の宝として岐阜はもとより
各地より集う人々に対しても、感動と響きを与えています。

信長が駆け抜けた生涯49年を想い、その生きざまや背景を「和太鼓」で表現した曲です。

第1部『信長出陣』 第2部『楽市』 第3部『本能寺』の3部構成で、戦国乱世を
集結するべく、天下布武をめざし一戦一戦を戦う様を太鼓で表現してみました。

・第1部『信長出陣』

ほら貝を合図に曲が始まり、合戦の勇壮な様子を表現した曲です。

・第2部『楽市』

活気にあふれた岐阜の街の様子を踊りを中心にして、シンセサイザー
笛、チャップ等いろいろな楽器をとりまぜて、おもしろおかしく演奏します。

・第3部『本能寺』

信長の最期となった本能寺の変において裏切られた信長の心情を表現した
曲です。

創作太鼓『オリベ』

平成8年、梶原拓(知事)に作曲していただいたリズムを基に各メンバーが得意とする
リズム等を取り入れながら、創りあげた曲です。

創作太鼓『オリベ』は、美濃に生まれ武将としてまた天下一の茶人として大活躍した
古田織部の精神(オリベイズム)に学び自由・斬新・独創・共生を「和太鼓」で表現し、
後半は楽しい踊りを中心に、誰もが参加できる曲です。

緒 紹 (=序章)

子守唄。

母が子に心を込めて奏でる唄。

きっと誰もが母の子守唄で育った事ではないでしょうか。

笑顔と寝顔に子供の幸せを願いつつ、唄う母の子守唄は、とてもやさしく暖かく、いつまでも心に残り、もし唄が思い出せないとしても、きっと心の中、或いは自分自身のなかに生きていることでしょう。

そして、子もやがて親になり、きっと子守唄を唄い継ぐことでしょう。

その心とともに…。

『緒』 ころろ いとぐち 物のはじめ 起こり

『紹』 受継ぐ

タイトルの文字はこんな意味が込められています。

曲の中に、

「いつも君を思うよ」

「鬼さんおいでここまでおいで」

というフレーズがあります。探しながら聴いてみてください。

いつまでも純粋な心を忘れず、子から親へ、そしてその次の世代へ。時代は変化しても心は変わることなく大切に伝え続けてほしい…

来 Sing

どんなに悲しいときも、つらいときも、苦しいときでも…太陽が昇らない日はないのです。

Rising Sun(=日の出)は、必ず明日…『未来』に繋がっているのです。

この太鼓の『音色』『響き』(=Sing)を未来に繋げていきたい。

『夢』に、そして、未来に向かって、一步一步前進していきたい。

希望の陽が昇るように… 明るい未来に向かって、前進し続けたい。

そんな思い(『心』)を込めた曲です。

明るい未来が来るよう、進んで行きましょう！

創作太鼓 竹取物語

いまは昔、竹取の翁といふものありけり。

野山にまじりて竹をとりつう、よろずのことに使ひけり……

時は平安時代。冒頭こう始まる『竹取物語』は、物語の中で最古の作品と言われている作者不詳の物語で、『かぐや姫』の話として良く知られているお話です。

(あらすじ)

むかし、竹取りの翁というおじいさんがいました。

ある日、翁は竹やぶで光り輝く1本の不思議な竹に遭遇しました。その竹を恐る恐る切ってみると… 中にはかわいらしい女の子が…。

この天から授かった子は竹取の翁、媪に大切に育てられそして美しく成長しました。名は『なよ竹のかぐや姫』。五人の貴公子の求婚、そして最大の権力者の帝からの求婚も受けるほど美しく成長します。

竹取りの最中しばしば光る竹を翁は見つけ中から不思議なことに小判が。この不思議な竹のおかげで暮らしも裕福なものとなった翁と媪。

しかし、その暮らしも永遠ではありませんでした。

八月十五日の満月の夜、大切な姫が月から迎えがあり月に帰らなければ、離れなければならないというのです。

「なんとしても姫を手元に。このまま大切な日々を守りたい…」と願う翁は、帝より守衛隊を受け、配備し、かぐや姫を守ろうとします。

とうとう 八月十五日の満月の夜を迎えることになりました。

月の使者たちの到来。

そして…大切なかぐや姫は、使者に守られながら天高く昇っていきました。

今夜も月はあの夜空に。“いにしえ”の世界を映し出すかのように…夜空から月は見えています。

月は大切な人への思いも、全て優しく天より見守り、知っているでしょう。

時には、明るく優しくそして、時には物寂しげに。

あなたの見る今夜の月はどう映るのでしょうか。

この曲は、この物語の中にある【その情景】と【様々な人々の心情】を太鼓で表現していけたら…と思います。